

マタイ 5:1-12「山上の垂訓」

「イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。『心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。悲しむ人々は幸いである、その人たちは慰められる。柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである』

ここに、逆説の不思議が示されています。

貧しい人々は、不幸であると、わたしたちは考えます。しかし、主イエスキリストは言われるのです。「貧しい人々は、幸いである」と。

悲しむ人々は、不幸であると、わたしたちは考えます。しかし、主イエスキリストは言われるのです。「悲しむ人々は、幸いである」と。

どうして、このような逆説が、可能なのでしょうか？

わたしたちは、「神はどこにいるのか？」と思わざるを得ないような、悲惨な現実面に直面させられることがあります。この地上で、弱い人々に対する搾取が行なわれ、この地上で、小さな人々に対して暴力が振るわれるとき、この地上に、正義はないのだろうか、この地上に神はおられないのだろうか、と思わざるを得ないときがあります。まさに、わたしたちは「義に飢え渴いている」のです。

しかし、ここでも、主イエスキリストは、逆説を示されるのです。すなわち、「義に飢え渴く人々は、幸いである」と。

この理解し難い逆説は、どのようにして可能とせられているのでしょうか？

新約聖書は、主イエスキリストの出来事において、この逆説が可能とせられていることを、わたしたちに示しています。

フィリピの信徒への手紙において、聖パウロは、高きところにおられた神が、自らを低くして、十字架にかかれた、と述べています。

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました」(2:6-9)

これこそが、わたしたちが長年聞かされて来た、主イエスキリストの出来事です。

すなわち、神が、神ご自身を、十字架の死に至るまで低くされた、ということ。そのことによって、神が、小さき者、貧しき者を選び、救い上げてくださった、ということです。

この主イエスキリストの出来事において、高き者が、低くされているのです。この主イエスキリストの出来事において、富める者、満ち足りた者が貧しくされているのです。この主イエスキリストの出来事において、弱き者、小さき者が、神の国の王子、王女とされているのです。

この逆説は、聖パウロがコリントの信徒への手紙一で述べている言葉の中にも、鳴り響いているものです。それはちょうど、小さき者たちを天国へと招き入れる、高らかな鐘の響きを思わせます。

「兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。ところが、神は知恵ある者に恥をかかせ

るため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです。神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです」(1:26-30)

神であったが、人となられた。高きにあったが、貧しくなられた。王であったが、しもべとなられた。この逆説を生きられた主イエスキリストは、世を裁くため、再びおいでになります。わたしたちは、主イエスがおいでになるのを、待ち望んでおります。その日、主イエスが再びおいでになる日、主は「小さき者たちの王」として、おいでになる、と予告されています。その日、わたしたちは「小さき者たちの王」によって、裁かれることになります。

マタイによる福音書に、次のように述べられているとおりです。

「王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。お前たちは、わたしが飢えていたとき食べさせず、のどが渴いていたときに飲ませず、旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のとき、牢にいたときに、訪ねてくれなかったからである』すると彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渴いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか』そこで、王は答える。『はっきり言うておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである』」(25:41-45)

わたしたちは、目を覚まさなければなりません。神は、主イエスキリストにおいて、小さき者たちと、神ご自身とを、結び合わせておられるのです。神は、主イエスキリストにおいて、宣言しておられるのです。「よく見なさい、わたしは、小さき者たちの中にいる。わたしは小さき者たちの友である。小さき者にしてくれたのは、このわたしにしてくれたことなのである」と。

それゆえ、いまや、心が満ち足りている人は、用心しなければなりません。も

しわたしたちが、神なしで、満ち足りているとするならば。しかも「わたしは決して小さき者ではない。それなりに大きな者だ。だから、神なしでも、わたしは、それなりに満ち足りている」と思っているとするならば、わたしたちは、ほとんど決定的に、危険な地点にいることになります。

しかしまた、いま、人生において最低の経験をしている人は、同様にして目を開かなければなりません。なぜなら、「ここに神はおられない。神はわたしを見捨てられた」と思えるような、人生の最低の経験において、主イエスキリストが、わたしたちと共に結び合っていてくださり、わたしたちと共にいてくださるからです。わたしたちは、そのことに気付いていないかもしれません。それゆえに、わたしたちは、大きく目を開かなければなりません。

人生における最低の経験。それは、友から見捨てられ、愛する者に裏切られる経験です。その経験において、主イエスキリストは、わたしたちと結び合っていてくださいます。主ご自身、友から捨てられ、愛する者から裏切られる、という経験をされたゆえです。

人生における最低の経験。それは、誤解され、侮辱され、あざけられるという経験です。その経験において、主イエスキリストは、わたしたちと結び合っていてくださいます。主ご自身、誤解され、侮辱され、あざけられる、という経験をされたゆえです。

人生における最低の経験。それは、孤独のうちに死ぬ、という経験です。その経験において、主イエスキリストは、わたしたちと結び合っていてくださいます。主ご自身、孤独のうちに死ぬ、という経験をされたゆえです。

マタイによる福音書に次のように記されています。

「昼の 12 時に、全地は暗くなり、それが 3 時まで続いた。3 時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』 これは、『わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか』という意味である」(27:45-46)

わたしたちの人生の最も低き経験。その最も低き経験は、すでに、わたしたち

の主イエスキリストによって、触れられているのです。わたしたちの人生の最も低き経験。その低き場所において、主イエスキリストが、わたしたちと共に立っていてくださるのです。

ヘブライ人への手紙の著者が、次のように述べているとおりです。

「イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人たちを助けることがおできになるのです」(2:17-18)

わたしたちは、おのれの心の貧しさを、おぼえます。しかし、なお、喜ぶことができるのです。なぜなら、主イエスキリストが、貧しくなられた神として、わたしたちと結び合っていてくださるからです。

わたしたちは、おのれの深い悲しみを、おぼえます。しかし、なお、喜ぶことができるのです。なぜなら、主イエスキリストが、痛みと悲しみを担う神として、わたしたちと結び合っていてくださるからです。

わたしたちは、義に飢え渴きえ、「神はどこにおられるのか」「神の御心はどこにあるのか」と疑いをおぼえます。しかし、なお、信じることができるのです。なぜなら、主イエスキリストが、人生の最も低き所に触れられた神として、わたしたちと結び合っていてくださるからです。

それゆえ、わたしたちは、貧しさと、悲しみと、飢え渴きにもかかわらず、喜び、たえず祈り、すべてのことについて感謝することができるのです。

わたしたちは、もうひとつのことを、心におぼえなければなりません。それは、主が、低きにおいて、わたしたちと結び合っていたもうのは、わたしたちを主ご自身と共に、天の高き所へ、引き上げてくださるためだ、ということです。そのことを明らかに示している、エフェソの信徒への手紙の一節を読んで、お祈りすることといたします。

「憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました」(2:4-6)

祈り

恵み深い天の父なる神様、あなたは御子イエスキリストを、わたしたちにお与え下さいました。

御子イエスは、神とひとしい方であられたのに、その立場に固執しようとは思わず、栄光を捨てて、小さくなり、ベツレヘムの飼葉桶の中に、幼子となってお生まれくださいました。貧しい家庭において、貧しい人としてお育ちになり、貧しい人の友となり、貧しいわたしたちの罪を身代わりに背負って、十字架についてくださいました。

その十字架において、わたしたちの人生の最も低き場所、人間の経験の最も悲惨な場所へと、御子イエスは降りて行ってくださいました。そして、低き場所の「底」に、御子イエスは触れてくださいました。

わたしたちもまた、低き経験をすることがあります。わたしたちもまた、おのれの貧しさ、おのれの悲しさ、心の飢え渴きに、苦しむことがあります。

しかし、低き場所の「底」に、すでに、御子イエスが触れておられ、すでにそこに立って、わたしたちを待っていてくださることを、感謝いたします。

その低き場所の「底」から、御子イエスがわたしたち携えて、天にのぼってください、高きところへ、神の右にある栄光の座へと、わたしたちをも、もたらしってください、心から感謝いたします。

どうかわたしたちの心の目を開いてください。わたしたちが、いつも、自分自身を、主イエスキリストのうちにすることが出来ますように。

おのれの貧しさ、おのれの悲しみ、おのれの心の飢え渴きのうちに、わたしたちと共に結びあっていたもう主イエスキリストを、見る事ができますように。どうか信仰を与えてください。

主イエスキリストの御名によってお祈りいたします。

アーメン